

これからの関西経済と自治体 ～阪神タイガースが関西経済を救う！？～

大阪学院大学企業情報学部教授 國定 浩一 氏



◆ 略 歴

1964年東京大学法学部卒業
1964年株式会社大和銀行入行
メキシコ駐在員事務所長、新宿支社長、虎の門支店長等を経て
1989年5月 東京企画部長
1994年1月 常務取締役
1996年6月 専務取締役
1998年6月 大和銀行退任
株式会社大和銀総合研究所社長に就任
2003年4月1日 大和銀総合研究所、あさひ銀総合研究所、近畿大阪中小企業研究所、三社合併により、りそな総合研究所株式会社 代表取締役会長に就任
2003年6月27日 りそな総合研究所株式会社退社。経済アナリストとして独立
2003年10月 大阪学院大学企業情報学部教授に就任
主な著書に「阪神ファンの経済効果」（角川書店）がある。

1. 経済について

わたしは大学を卒業後、銀行に就職いたしました。その後、総合研究所に移りました。そして今年の6月に総合研究所を退職し、現在、経済評論家として活動しております。本日は、経済の話について要点だけお話しします。

経済については皆さんがそれぞれお考えをお持ちで、わたしの現在の日本経済に対する考え方は、経済評論家が100人いますと99対1ぐらいの少数派です。ですから、多分、本日も皆さんの中でわたしの意見に賛同していただける方はお1人ぐらいではないかと思えます。あとの99人のかたは、そうか、そういう考え方もあるのか、今後何か経済現象が起きる、あるいは、いろいろ日本の国で起きていることを考えるときに、考え方のベースとして、そのような見方もあるのかなという程度に受け取っていただければ結構です。

昔は経済は簡単な分野で、好況と不況が循環する、また、物づくりの後ろに金融があって行

政があるなど、明治以来、こういう考え方・やり方で日本の社会は穏便に来ていたわけです。しかし、昨今は非常に厳しい状況になってきて、好況と不況が循環しません。いつ景気がよくなるのか先行きが不透明になってきています。そして、今は小泉首相がリードする日本の政治が経済を動かしているという形がはっきりしていますので、経済の話をするとうどうしても政治の話になります。政治の話は、本当はわたしの立場ではあまりしたくないのですが、経済に関してお話しするというので、一部小泉首相の話をするをお許しいただきたいと思えます。

小泉政権がスタートしたのは2年半前ですが、今でも60～70%の支持率があります。2001年4月24日、自民党の総裁に選ばれ、朝から日本中大騒ぎでした。テレビや新聞が「素晴らしい政治家が誕生した」、「イメージが従来とは違う」、「日本を根本から変える新しい政治家が誕生した」と大歓迎し、その時点ではほぼ100%の支持率だったと思えます。ちょうどその日、わた

しはロータリーの会合で話をするようになっていました。その時に「本日、小泉さんが自民党総裁になり、数日後には総理になります。これは日本人にとって最悪の選択であるとわたしは思います」と申し上げ、主催者から嫌な顔をされ、ほとんどの出席者から冷たい視線を浴びたのです。それから2年半が経ちましたが、今のわたしの考えは全く同じです。よりその感を深めています。

小泉首相は「痛みなくして改革なし」と最初に言ったのですが、これほどまやかしの言葉はないだろうと思います。今日に至るまで、発生しているのは「痛み」ではないのです。ただし、小泉首相はいまだに「痛み」という言葉を使っています。あと2年痛みを我慢すれば日本の景気はよくなると言っています。しかし、大事なことは、現実に発生しているのは「痛み」ではなく「犠牲」だということなのです。もっといえば自殺者です。3万人といわれる日本の自殺者、未遂を入れると10万人、失業者330~340万



人、大阪に非常に多いホームレス等々、国民の1,000万人ぐらいが日々の生活の恐怖の中で暮らしています。日本人の2割ぐらいが明日はどうかという日々を送っています。

しかし国民の6割ぐらいは全く安泰な生活を送っていて、この人たちが小泉首相をずっと支持していますから、世論調査では支持率60%ぐらいになるわけですが、問題は多数決ではないということです。苦勞する人の生活やその人の人生を犠牲にするということは絶対に世界のいかなる国でも許されないと私は思います。政治が、あるいは国の政治のトップが、2,000万人は死ぬような思いをして犠牲になって下さいと要求して受け入れられる権利はないのです。

サラリーマンの方々は今、本当に戦々恐々として暮らしています。給料は、リストラをされずに済むなら給料カットぐらい我慢しなければいけません。中小企業では2割ぐらいカットされているのが普通です。こういう人は、会社に行って9時ごろに社長に呼ばれるとぞっとする。リストラかと思って行くと、「君はよくやってくれている、君は力がある、その才能をよその会社で生かしたらどうかね」と言い渡された。帰宅して奥さんと子供2人を呼んで、「お父さんは11月から会社に行かなくていい、リストラだ。しかし、嘆き悲しんではいけない。これが小泉首相のおっしゃっておられる国民の痛みの部分だ。我々家族がこの痛みを我慢したら、2年後には日本の国は絶対よくなる。我慢しよう」と、そんなことがあるはずがありません。その家族にとっては本当に死ぬ思いです。

大阪の東ハローワークに行ってびっくりしました。コンピュータで仕事を探すところが非常に混み合っていて、ものすごく真剣な雰囲気

す。しかし、募集内容を見ると60代の仕事は見当たりません。50代でも夜から朝までのビルのメンテナンスの仕事、道路工事の警備などで、月給8～9万円、年収で100万です。40代でも事務職はほとんどありません。このような仕事しかない社会なので、今、会社をリストラされるということは経済的に「あなたの家族は死んでください」ということと同じことなのです。それが現実に行われていること自体が、日本の大問題です。一般に、経済は数字的にはよくなってきているといわれていますが、経済の現場は惨状を呈しています。

それから、小泉首相の言葉には、「骨太の方針」というものもあります。マスコミは「骨太というのは素晴らしい、今までなかった」と賞賛しました。言葉としてはいい言葉ですが、問題は中身なのです。「失業」という言葉もそうです。失業というのは非常に厳しいことで、失業したら次はないのです。しかし竹中大臣は就任のときから「失業」という言葉は使わず、「今の仕事を離れて新しい仕事に移っていただく方々」という言い方をしているのです。しかし、今の日本では40歳を過ぎてから他の仕事に移れることは、よほどの技術を持っていない限り可能性として非常に低いのです。

2年半前、竹中大臣は「失業失業というけれど、ITで500万人の新しい雇用を創出します」と言いました。しかし、実際は雇用はゼロ、それどころかIT業界が失業を吐き出したのです。それについての責任はどうなっているのでしょうか。小泉首相は今でも「改革の痛みを耐えて頑張ろう」と言っていますが、耐えても何も起こらないのが現状です。

株価を見ますと、2000年4月、小淵さんが亡

くなられたとき、日経平均株価は2万円台でした。2003年3月末は8,000円、今は1万円です。小淵さんが2001年4月に首相に就任したときは1万4,000円だった株価が期待感から1万5,000円近くまで上がりました。つまり、小泉総理は1万5,000円だった株価を1万円まで下げたわけです。株価を下げている総理が非常に人気があるというのは何かおかしいですよ。経済の観点からいうと、結果がすべてだと思います。

もう一つ、小泉首相は「過去、日本の首相はだれも日本経済を上向きにすることができなかったが、我々が日本経済を根本から建て直す、それが構造改革だ」と言っているのですが、だれも日本経済を建て直すことができなかったというのは誤りなのです。小淵内閣の時代には株価を2万円まで引き上げています。多額のお金をつぎ込んで、道路工事などの公共工事を行ったために多くの批判はありました。しかし、株価を2万円まで引き上げたという事実はあるのです。

橋本内閣のときには、構造改革、財政赤字、景気回復の三つの難しい問題があって、全部に取り組もうとして結局失敗したのです。その後の小淵内閣は、あらゆる批判をはねのけて景気対策をやらなければいけないと割り切って、真っ先に景気対策をやりました。それで株価が上がったのです。わたしは、当時連載していた大阪の新聞に、小淵さんが病気で倒れたとき、「小淵名宰相ありがとう」というコラムを書きましたが、小淵さんを名宰相と言った人はあまりいませんでした。

実は、このときの月例経済報告にも「景気は自律的回復に向けた動きが徐々にではあるが現れている」という言葉が使われ、景気は本当に

回復に向かったということは認められていたわけです。本当は、ここでもう少し頑張ったらよくなっていたのではないか、それがそうならなかった。その理由は三つあります。一つは、当時の日本銀行の速水総裁がその年の4月12日に「そろそろゼロ金利を解除する」と言ったことです。株価はその日から下がりはじめています。二つ目には、「自律的回復に向けた動きが徐々にではあるが現れている」と報道された途端に、財界や経済界から、一切公共工事をやめろと圧力がかかったことです。三つ目に、「そうだ、そうだ」と理論的根拠を与えたのが、当時の学者グループたちです。

小渕内閣のあと森内閣が発足しました。森内閣の基本方針は小渕内閣の政策を引き継ぐことでしたが、上記の三つの理由により、方針に急ブレーキをかけて緊縮財政に転じました。それで株価が下がったのです。

このときに、堺屋太一さんは、「飛行機は上昇してきているけれど昇りきっていない、まだ水平飛行に移っていないからエンジンを止めてはいけない、ここで止めたら失速する」と発言して辞任されています。そして、現実には失速しました。小泉首相は1万5,000円で引き継ぎ、「景気対策はやらない、構造改革だけで景気はよくなる」と言っていましたが、結果は株価8,000円～1万円で上がっていません。

最近、株価が8,000円から1万1,000円に上がったじゃないか、このまま上がるのではないかという話がありますが、これは違います。3月末に8,000円に下がったのは経済の実力で、これが1万1,000円まで上がった理由は、一つはアメリカの株高です。アメリカの株が上がれば日本の株も上がる、アメリカの株が下がれば日本の

株も下がるということです。二つ目は、りそな銀行です。りそな銀行が5月16日にひっくり返ったのですが、預金は全額保護されました。もう一つ、株が実質的に保護され、当時50円を切っていた株が今150円になっているのです。それで日本人の投資家が「株はいける」という安心感を持ったのです。

5月ごろの週刊誌では、老後が危ない、りそな銀行が危ない、と金融機関の話ばかりでした。でも、今はそんな話は全くないですね。日本の大きな銀行はつぶれない、りそな銀行は実質的にはつぶれたけれども、預金も株価もいいほうへ行ったじゃないかということで、金融機関の株価が上がった、こんなのはあぶくなのです。アメリカとりそな銀行の件で上がっているだけで、景気が回復したから上がっているわけではないのです。

ところが、株価が8,000円から1万円に上がったとき、小泉内閣は毎日、「それは当然だ、経済がよくなっているのだから株が上がるのは当たり前だ」と言いました。でも、3月に8,000円に下がったとき、この人たちは何と言ったかというと、「イラクの戦争とSARS（重症急性呼吸器症候群）のせいだ、外国のせいで下がった」。いいことは自分のおかげ、悪いことは人のせい、こういう現状です。

さて、これから株価はどうなるのでしょうか。わたし自身の個人的な予想は、株価は下がります。それはなぜかといいますと、景気回復の仕込みをしていない、お金を使っていないのに景気が上がるはずがないのです。

日本銀行の短観（企業短期経済観測調査）で経済は改善されるという話が出ました。それから、大企業の一部、メーカーに設備投資が増え

たり、収益がよくなったりしているという話が出ていました。小泉首相はそれを全部日本経済が回復していると言うのですが、それはまた違うのです。大企業の一部の数字がよくなっているのは確かですが、大企業は思いっきりリストラをやっているわけです。5,000人いたら2,000人は切れるのです。切られた2,000人は下に落ちてきてホームレスにまで至っているわけです。同時に、大企業はコストをカットしていますから、しわ寄せは下請けの中小企業へ行き、下請けが倒れていきます。このように、犠牲を伴いながら進んでいるわけです。こういう経済社会の中では仕方がないのです。つまり、全体のパイを大きくすることをしない中で自由に争えと言っているわけで、強いものが勝つのは当たり前なのです。これからもっともっとそれは激しくなり、強いものは生き残りますが、中小企業はどんどん倒れます。金融機関が融資を締め上げていますから、これからびっくりするような倒産がいっぱい出てくる可能性があります。

わたしなら、とにかく今の時点では景気回復を第一にやります。国の財政の問題、構造改革の問題、景気対策、三者択一ではなく、順序の三者択一です。景気対策をまずやって、下でもがき苦しんでいる国民を一ぺんちょっと持ち上げる。構造改革はその次で、順序としてはまず景気対策をやるべきだというのがわたしの意見です。

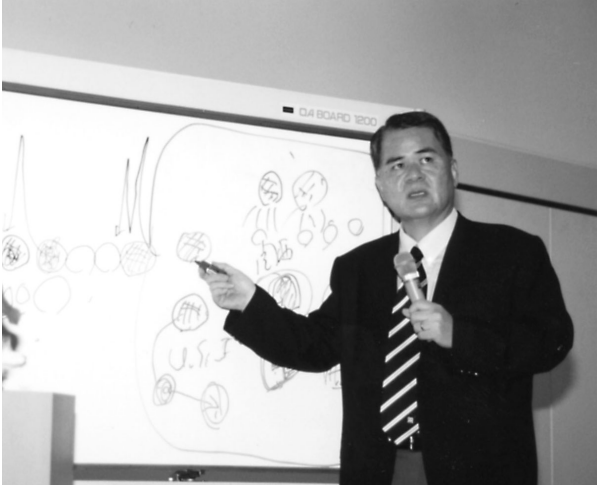
小泉首相には、大胆に政策を変更して景気対策に力を入れてもらいたいものです。そうすると、財政の問題などは簡単なのです。景気が悪いから法人税などが非常に減っているわけで、景気がよくなれば税収は何十兆円でもすぐ上がります。

2. 関西経済の明るい材料

関西、その中でも大阪で、ちょっと明るい兆しが出てきているのは事実です。中小企業の中にも元気が出てきました。堺、東大阪で成功しているところを見ますと、明らかに共通する点があります。それはITです。従来型の中小企業の仕事は、ここ数年、中国やベトナムの安い労働力にやられてだめになりました。生き返るにはどうしたらいいかと頑張っ、ITを使ったということなのです。関西経済連合会の中にIT戦略会議というのがありまして、優秀企業が15ほど表彰されたのですが、最優秀賞がねじのサンコーさんと滋賀県のまんじゅうのたねやさんです。たねやさんは老舗のまんじゅう屋ですからITはあまり関係がなさそうですが、ITを導入して人事管理や在庫管理、仕入れ、販売、店舗管理等を徹底的に分析して再配置したことにより非常に大きなコストダウンが可能になり、体質が変わったのです。ですから、業種は関係ないのです。

業種でいうと、逆に古いものを守っているところが成功しています。ベンチャーがだめだというのは、何も関係のない事業をしたら成功率が低いということで、成功しているベンチャーはほとんど本業でやっています。自分が祖父や父から受け継いだ本業は、かつては世界一でありオンリーワンであったのだけれども外国の労働力にやられたのです。しかし、我々の得意なのはこの技術だということで、その中で工夫して、おもしろいといわれるアイデアをもう一度やってみることが大事なのです。

神戸大学の加護野教授は、「本業のまっただ中での新規事業」とおっしゃっていますが、まさにそうです。関係のないことをやってもだめ



です。これまでやってきたことに何か付加価値をつける、今までなかったもの、おもしろいといわれるアイデアを自分の本業で実現する、徹底的に売る努力をする、この一連の努力をしたところが成功するというパターンができ上がっています。

3. 消費を動かす

今の日本経済のいちばんの問題は、消費が落ち込んでいるということです。日本国民がお金を使わないのです。日本には1,400兆円といわれる個人資産があり、世界に冠たるものです。ただ、これが全然動かなくなってしまった。このお金を世間にばらまくと景気がよくなるのです。そしていっぺんにではなく、みんなが少しずつお金を使いだすと水が広くしみわたっていくように、景気がよくなるのです。

本当に皆さんお金を使わなくなりました。特に女性は使いません。例えば、わたしは銀行で客商売でしたから、妻が2～3年するとスーツを買い替えろと言ったものですが、ここ4～5年は言いません。ユニクロなどは非常に安くて品質のいい服を売っていて、近くにできたので家内と一緒にしてみました。行くととても楽

しくて、たくさん買って帰宅しました。服の縫製がしっかりしていて、なるほどこれでは大阪の泉州地域の繊維産業も大変だなというのが分かったわけです。

雑貨も安くなり、100円均一、80円、50円で売っています。

サラリーマンの昼食も変わりました。以前は1,000円定食、700円のごはん、300円のコーヒーでしたが、今いちばん多いのは、街角のお弁当屋さんで売っている大体380円か400円の弁当です。とにかく安くなりました。そんなことを考えると、1,400兆に手をつけないというのは分かるわけです。手をつければみんながもう少しいい生活ができるじゃないかということになるわけです。

皆さんあまり気がついていませんが、大阪には宝物が二つあります。一つはU S J (ユニバーサル・スタジオ・ジャパン) です。初めの年には1,100万人が訪れました。最初の1,100万人というのは世界最速の記録だったそうです。

U S Jは非常に面白いのです。テーマパークの条件はいろいろありますが、面白いことがまず第一です。わたしは10回以上行っていますが、何度訪れても面白いのです。U S Jが出来てから大阪へいっぱい人が来るようになりました。関西地方に観光旅行をするといえば以前は、初日は奈良へ行って2日目は京都、3日目は大阪でした。しかし大阪は見物するところがなかったのです。しかし今はU S Jがあります。非常にいいものができました。U S Jは大阪の宝です。

U S Jは年中無休ですから、1,100万人ということは毎日3万人が来ている計算になります。平均2泊3日で大阪のまちに毎日3万人が訪れ

ていると考えると、消費に悪いはずがありません。

出口調査では、8割の人が「友達に話したい」、「また来たい」、9割5分の人が「もとを取った」と答えています。ほとんどの人が非常に満足しているのです。面白いもの、明るなもの、楽しいものがあれば人はお金を使うものです。

デザイナーのコシノヒロコさんに先日お会いしまして、「デザインの世界でも、感動に対して人はお金を使うんだね」とおっしゃっていました。感動に対してお金を使う、一緒なのです。感動できるいいものが、大阪にできたのですから、いいところに住んでいるなど、みんなで思いましょう。

4. 阪神タイガースについての経済的考察

(1) 「経済効果」の怪しさ

さて、いよいよ阪神タイガースの話をしていただきます。わたしは何年も前から講演で阪神の話をしているのですが、面白いのです。こういう話をできること自体が面白いのです。東京のエコノミストが講演で巨人のことを話しているかという、ほとんど聞いたことがありません。経済のことを話す人間が球団について話せるというのは、阪神しかないのです。わたしは熱狂的な阪神ファンですし、ましてや応援団の役員なので、全く中立ではありえません。しかし、偏っているがゆえにそこで見える真実というものをつかみとっていただければありがたいです。

阪神についてよく聞かれるのは、「経済効果」ということです。「経済効果」というのは、やはり言葉です。新聞や雑誌やテレビの人が経済効果、経済効果というので耳にしみついています。何かというと経済効果、ワールドカップの

経済効果、愛子様ご誕生の経済効果、何でも経済効果といえば賢そうに見えると思っっているのです。

経済効果についてはいろいろな数字が出ました。阪神が優勝したら700億～1,000億、4,000億、そういう数字がぼやっと浮かぶと思いますが、わたしが言っているのは「そんなもんやない、阪神の経済効果はごっついで」ということです。「『ごっついで』はなんぼですか」「それは勝手にみんなが考えたらええんや、あんたの周りで飲み食いしとるやろ、その合計がごっついで」と言っているのですが、その話をいちばんしたいのです。

大阪近鉄バファローズが去年優勝しました。近鉄沿線の商店街とデパートでセールが行われ、事前に研究機関から経済効果は200億円という発表がありましたが、これは的中しています。福岡ダイエーホークスも同様です。

大阪府立大学経済学部の宮本勝浩教授が5月に734億円という数字を出し、日本総合研究所が1,133億円、U F J 総合研究所が4,000億円～最大6,355億円をはじき出しました。わたしの「ごっつい経済効果」というのはどのくらいか。本来、阪神ファンは球場へ行く人だけではなく、みんな各地で集まってわいわいやっているわけです。U F J 総合研究所の計算は、全国の阪神ファン、タイガースの公表数字である1,500万人というのをベースにしています。実際のところ、1,500万人に含まれないにわか阪神ファンがお金を使ってお酒を飲んだりグッズを買ったりしているわけで、それらを含めるとかなりの金額になります。

U F J 総合研究所では、全国の阪神ファンが、今年85勝として、1試合当たり飲み食いに118

円使うとして計算しています。わたしの場合は1勝当たり118円で計算しておりません。その一例として、普通は4～5人が居酒屋で朝まで騒ぐ、あるいは、今まで甲子園ばかりで家族に迷惑をかけていたから、週末は家族でU S Jに遊びに行く、さらにファミリーレストランで食事をしてから家に帰る、みんな気分がいいからそういうお金がごそごそ動いていくのです。そのようにしているいろいろなところでお金を使うわけです。

ある駅前の健康ランドでは、80万円をかけて宴会場に大スクリーンを設置しました。このスクリーンを見ていたおじさんが「強いな、ええな、阪神が強いと酒もすすむわな」と言ってものがすごく飲んでいる。これも経済効果です。このような例は枚挙にいとまがありません。

東京から甲子園に来る人は、雨のことを考えて2日分切符を取るわけです。試合は夜ですから、昼間はU S Jです。これで相乗効果があるわけです。長距離のバスで甲子園に応援しに来る人もいます。このバス代も経済効果です。全国各地で、みんなが少しずつお金を使っているため、ものすごい経済効果になっているのです。また優勝セールをする場合はどの球団でも1週間か2週間のセールですが、阪神の場合は、始まる時期が早いのです。優勝してから始まるのではなく、8月ごろからあちこちで応援セールをやったり、小売店がいろいろなものを勝手に売ってやっています。

8月は、100%優勝間違いないとみんな騒いで、あちこちで飲み会をやっています。7月は、マジックが点灯したのを見て「今年は優勝が決まった」とあちこちで前祝い大会。6月は、5月はといつまでも続くのです。

あるとき、レポーターが「國定さん、阪神の経済効果は結局どうだったのですか」と質問してきたので、「まだ、終わっていませんよ。今はセールが終わっただけで、これから経済効果が発生するのです。だからそういう質問自体間違っています。阪神タイガースの経済効果はごつついのです。」と答えたら、放送ではカットされていました。

(2) 阪神ファンの特質・・・巨人との比較

去年に出した『阪神ファンの経済効果』という本がおかげさまでベストセラーになりましたが、キーワードは「2勝3敗の哲学」です。阪神ファンというのは、去年まで大体2勝3敗か1勝2敗で、それを悲しまずに、2勝3敗でいいと思ひましようよということです。5勝1敗とか6勝0敗とかいうのは巨人ファンのオーナーぐらいのもので、阪神ファンは2勝3敗でいいじゃないですか。

わたし自身も人生2勝3敗で、嫌なこともあったし、最近はりそな銀行がひっくり返ったので2勝4敗ですが、それでもいいのです。5回戦ってあの巨人に二つも勝ったじゃないかと思うことなのです。巨人ファンは常に勝たなければいけないと思うから、例年80勝60敗で優勝しても60敗したことに腹が立つのです。80マイナス60、20ぐらいのプラスです。阪神は去年まで、60勝80敗としても、80敗は初めからそんなものだと思って捨てているから全然気にしません。60の勝ちだけが残りますから阪神ファンは60の楽しみ、巨人ファンは20の楽しみ、どっちが幸せかというとなら阪神ファンのほうです。

わたしのメル友に東大寺のお坊さんがいて、「大事な人生の1日、みんなで楽しみを見つけ

て暮らしましょう、阪神はすごく楽しいですよ」
と言ったら、彼の返事は、「華嚴経は、すべての
の生き物は心の中に仏の種を持っていると説か
れています。仏様が常に花が咲いたり実ができ
たりした状態だとしますと、わたしたちはまだ
みんな種です。でも、仏になる可能性はすべて
の生き物が等しく持っています。だから、みん
なでそれぞれ自分の種を育てて花を咲かせよう
じゃないかと、仏の教えも非常に前向きなので
す」ということでした。

優勝が近づいたとき、「蓮の花は夜明けごろ
つぼみが開いて咲くときにポンという音がしま
す。阪神の花が開いてみんなの心の花も開いて、
ポンという音がいっぱい聞こえますように」と
いう素晴らしいメールが来ました。

む す び

いろいろ話してきましたが、結局キーワード
は、小泉首相に日本の経済を立て直してもらわ
なければいけないということです。ただ、その
中で、我々にできることは消費で、みんなで元
気になってお金を使いましょうよということな
のです。景気は気なのです。ぜひ気持ちを明る
くして人生を大いに楽しみましょう。

わたしはこの3か月間失業していたので、戸
籍抄本や身分証明書などを取るために何回も市
役所に行ったのですが、一度も不愉快な思いを
しませんでした。入り口の案内の女性も優しく
て、とても親切です。このような行政サービス
を提供していただいたら、本当に地域の人も喜
ぶと思います。